

日本教育工学会 SIG-08「メディア・リテラシー、メディア教育」

第8回研究会のお知らせ

英国のメディア教育研究者アンドリュー・バーン(Andrew Burn)氏を招聘して、シンポジウムを開催いたします。次期学習指導要領では、教科等横断的な視点に立った「情報活用能力」の育成や、国語科学習における「視聴覚教材」のより有効な活用が謳われています。そこで、こういった学習をより豊かなものとするために、アンドリュー・バーン氏を招聘し、英国や日本の小学校・中学校・高等学校における参加型メディアと言葉の教育についてお話しを伺い、議論の場を設けたいと思います。どうぞ奮ってご参加ください。詳細・プログラムは以下の通りです。

- テーマ

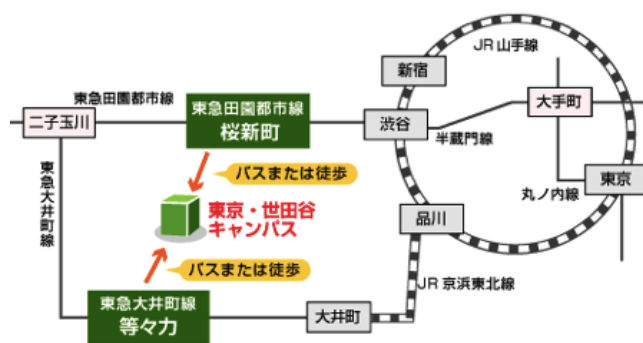
『参加型メディアにおける映像と言葉の教育』（逐次通訳あり）

- 日時

2017年9月13日（水） 18:00～20:30

- 場所

日本体育大学（世田谷キャンパス）記念講堂（教育研究棟 BF）



- 参加費 無料

- 参加申込み

下記登録サイトより事前申し込みにご協力ください。

<https://goo.gl/forms/4RtGBh70f9j7o3c33>

(右のQRコードからも登録サイトを開けます)

※終了後バーン氏を囲んで、学内で懇親会を開催いたします
(会費 2,000円程度)。

これについてもご参加可能な方は、同サイトから事前参加登録にご協力ください。

- その他、お問い合わせは下記アドレスまでお願いいたします。

(石田：kimish@ynu.ac.jp / 奥泉：okuizumi@nittai.ac.jp)

- 実行委員

森本洋介(弘前大学) 奥泉香(日本体育大学) 和田正人(東京学芸大学)

水澤祐美子(成城大学) 村井明日香(桜美林大学) 田島知之(FCTメディア・



リテラシー研究所) 松田結貴(The University of Memphis)
石田喜美(横浜国立大学) 高橋敦志(東京学芸大学大学院博士後期課程)

● **プログラム**

0. 受付開始 (17:30)

1. 開会の挨拶 (18:00) 宇治橋祐之 (NHK 放送文化研究所)

2. 第1部 報告 (18:00~19:35)

2-1. アンドリュー・バーン氏の研究的背景 森本 洋介 (弘前大学)

2-2. 日本におけるメディアを用いた言葉の教育 岩田 晴之
(神奈川県立横浜国際高等学校)

2-3. 英国における参加型メディアと言葉の教育 アンドリュー・バーン
(University College London)

※ 休憩 (19:35~19:45)

3. 第2部 討議 (19:45~20:30)

指定討論者 1 : アンドリュー・バーン (University College London)

指定討論者 2 : 松田 結貴 (The University of Memphis)

指定討論者 3 : 鈴木 二正 (慶應義塾幼稚舎)

4. 閉会・諸連絡 (20:30)

アンドリュー・バーン氏の紹介

英国 University College London 教授。子ども・若い人たちとメディア研究センターにおいて、デイビッド・バッキンガム氏らと協働研究を行っている。代表的な仕事に、英国のグローブ座との協働研究で、シェイクスピアの作品理解や、現代の若者・子どものための文化的・歴史的な吟味・検討を目したゲームオーサリングシステムの開発(Playing Shakespeare: developing a game-authoring tool for Macbeth with The Globe and Immersive Education, AHRC Digital Transformations programme, 2012)や、英国映画協会や EU との協働による、画像理解、映像理解のための若者や子ども向け教材の開発、ソフトウェアの開発等がある(Film Literacy in EU member states, Co-I with the BFI and Film Education, Screening Literacy, EC, 2012)。

主催： 日本教育工学会 (SIG-08 メディア・リテラシー、メディア教育)

協賛： 電気通信普及財団研究調査助成 (研究代表：石田)

科学研究費助成事業 16K04709 (研究代表：奥泉)

日本体育大学総合スポーツ科学研究センター